



本展では写真家・池田宏の写真とインタビューを通して、
「今」を生きるアイヌの人々について知り、

誰もが誇りをもって生きられる社会について考えたいと思います。

アイヌの人々は、かつて同化政策によって生活の基盤や独自の文化を奪われました。

現在、新たな法律*によって誇りの源泉である文化は回復の途上にある一方で、

アイヌを誹謗、中傷、嘲笑するなど、その尊厳を否定する人々がいます。

池田が出会い、レンズを向けた一人ひとりの存在とその言葉から、

今、日本で「アイヌであること」の意味を考えます。

*「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（2019年施行）
本展は昨年度開催しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により会期の大部分が休館となったため、再度、開催いたします。

2020年12月に開催した「現代アイヌの肖像」展は新型コロナウイルスの感染拡大のため、わずか5日間で閉じてしまったが、再び東京都人権プラザから展示の機会を与えてもらったことに感謝している。

展示再開の機会を探るなか、2021年3月に日本テレビの朝の情報番組でお笑いタレントがアイヌに向けた差別発言をおこない、それが全国に放送された。原因は制作サイドのチェックの甘さ、そしてアイヌに対する無知と無関心だったという。

また、SNSでは誹謗中傷が繰り返されている。歪曲された情報が入り乱れ、発信者は匿名性を盾に攻撃を続けている。言葉の暴力に溢れたインターネット社会。アイヌの血を引く友人は、ネットでアイヌに関する情報を見ないようにしていると語っていた。彼と家族の日常を脅かす

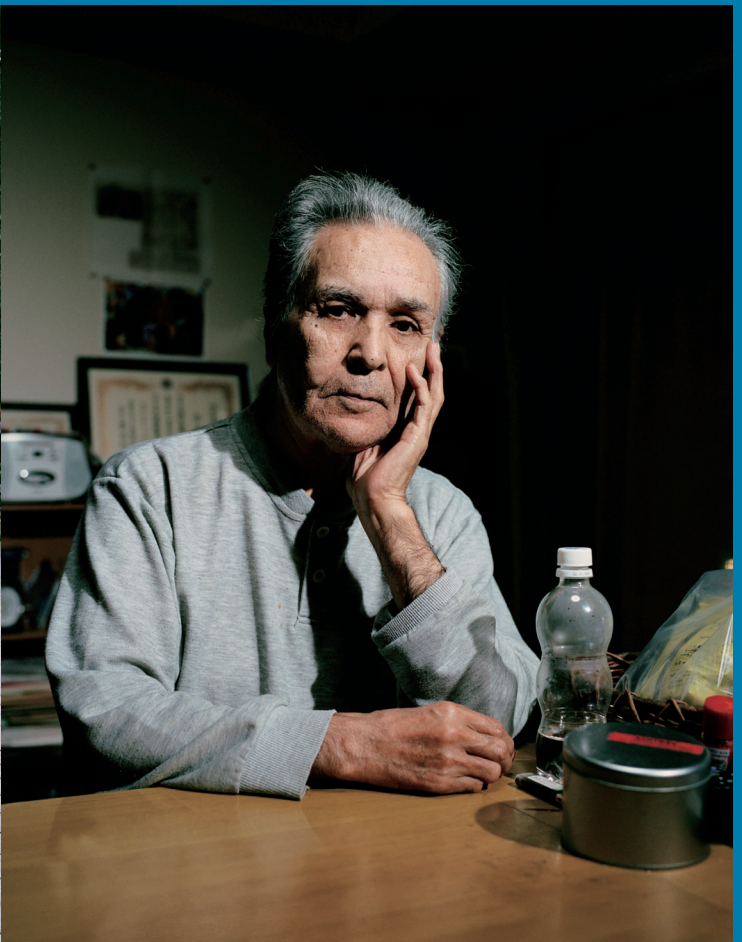
社会のあり方に私は憤りを覚える。

何が真実で何が嘘なのかを見抜けない人たちが情報に惑わされ、現実感を失いかけているように思える。携帯のディスプレイを見つめ、その向こう側にも人間がいることを忘れ、文字を入力し発信する。いつかそれは自分にも跳ね返ってくるかもしれないことすら考えずに。果たしてそれは何のためなのか？

他者を理解するのは難しいが、想像力を働かせることはできる。個と個が向かい合い、一人ひとりの声に耳を傾け、相手を想う。アイヌの人たちが語ってくれた一つひとつの言葉を丁寧に拾い集め、この歪んだ社会にリアルをぶつけていく。

写真には写らない被写体の声が、ひとりでも多くの人へと届くことを信じて。

池田宏



池田宏（いけだ ひろし） 1981年生まれ、佐賀県小城市出身。大阪外国語大学外国語学部スウィリ語科卒業後、2006年にstudio FOBOSに入社。2009年よりフリーランスで活動する。2008年からアイヌ民族をテーマに作品を制作。2022年春にアイヌの人々のインタビュー集を出版予定。

写真集

『AINU』（2019・リトルモア）

個展

『SIRARIKA』（2018・スタジオ35分）

『AINU-LANDSCAPE』（2019・スタジオ35分）

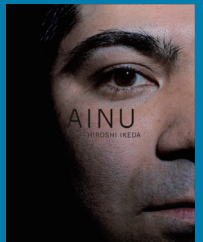
『AINU-PORTRAIT』（2019・Title）

『SINUYE（シヌイエ）』（2020・創作一心跡地）

グループ展

『日本の新進作家vol.18』

（2021・2022・東京都写真美術館）



『AINU』池田宏（発売：リトルモア）

展覧会関連記事配信

特設ウェブサイトにて公開します

（取材・写真：池田宏、編集：浅原裕久）



交通

- 都営三田線「芝公園駅」A1出口から徒歩3分
車いす・ベビーカー等ご使用の方は、A3出口エレベーターをご利用ください。
- 都営浅草線・大江戸線「大門駅」A3出口から徒歩7分
車いす・ベビーカー等ご使用の方は、A1出口エレベーターをご利用ください。
- JR・東京モノレール「浜松町駅」南口から徒歩8分
車いす・ベビーカー等ご使用の方は、改札を出る前に駅員にお声かけください。

東京都人権プラザ

〒105-0014 東京都港区芝 2-5-6 芝 256 スクエアビル1・2F

TEL 03-6722-0123

E-mail tenji@tokyo-jinken.or.jp URL <https://www.tokyo-hrp.jp/>

（注）ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。身体障害者の方等、公共交通機関の利用が難しい方専用の駐車スペースをご用意していますので、事前にご連絡ください。

来場者限定
展覧会図録

先着順・無料